

Rotary  
Club of KOBE EAST



# The Rotary club of Kobe East **BULLETIN**



神戸東ロータリークラブ会報

No.390 2019-2020 No1

表紙絵：太原 震也元会員

会 長／須藤 雄二 副会長／井元 憲生 幹 事／吉田 茂 広報委員長／石橋 恒生 副委員長／小谷 哲也  
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

クラブ会長テーマ「クラブライフを通じて世代を超えた繋がりを」



Vision is dream with purpose



RI President

MARK DANIEL MALONEY  
2019-20年度国際ロータリー会長





神戸東ロータリークラブ  
会長  
理事 須藤 雄二

## 年号が平成から令和に移りました

平成元年に入会し、平成と共にクラブに所属し、令和元年に会長に就任することに特別の感銘を受けます。

よく「平成とはどんな時代だったのか」という議論があります。

この問いへの模範的な答えは、平成はバブル景気に始まり、土地の信用創造で出来たジャパンマネーが、世界の不動産や株を買い占めたが、バブルが崩壊とともに、金融界では13の都銀と3つの長信銀がわずか4グループに再編され、政界では、「55年体制」が崩壊し、その他、大きな自然災害、事件、事故といった痛ましい出来事が次々と日本を襲った時代とされています。

しかし私が平成について感じるのが、平成はそれまで我々が当たり前とっていた既成の概念や常識が無くなっていった時代だったということです。

身近な例では、結婚式では仲人を立てず若者が自由に式の次第を決めていますし、葬式でも家族葬、直送など葬儀をしない、戒名も不要など、それまで当たり前とっていた慣習が崩れてきています。子供の名前も字画等気にせず、キラキラネームを付けています。また今の若者は家を建てる時の間取りのとり方も全く自由です。

その理由には、家庭の可処分所得の伸び悩みにより、出費を節約せざるを得なくなったことや、インターネットの普及により、世界中の膨大な情報が入ることによる価値観の変化等、様々な複合的な要因があったと思います。そして今の所この流れは、5Gと言われるより高速のネット環境の整備と共に、国を超えて続いて行くように見えます。

生物の進化の歴史を紐解くと、神経の発達とその信号伝達速度の向上により、体内に散らばっていた機能が、一つの脳に集約し、脳で集中的に処理をするようになったという知見があります。現在起こりつつある情報伝達速度の飛躍的な向上と、AIによるビッグデータの処理が、より一層の情報処理の集約化を促すと思われますし、社会構造も同様に変化していくかも知れません。

ロータリーも平成の間に大きく変化しました。

私が入会したころは、各クラブがRI（ロータリー国際）直属の自治権のある組織であり、ロータリークラブとは社交クラブであり、奉仕団体ではない、奉仕するロータリアンを育てる場である、その根幹を増すのが職業奉仕ということと言われてきました。そしてその育てる場、自己研鑽の場が例会であり、それ故、例会の出席が重んじられていました。

その後の、グローバルゼーションによる製造業の低賃金国への移転、象の鼻の形と言われる中間層の所得減少、などと共に先進国における会員数が減少しました。当地区でも4000名ほどおられた会員が2700名程度まで減少しています。またクラブの解散や合併も見受けられるようになりました。

解散していくクラブの特徴は、新入会員の入会が無く毎年平均年齢が上昇し、会員の高齢化と会員数の減少によりクラブ運営が成り立たなくなっていくというものです。

RI（ロータリー国際）ではこの変化に対応するように種々の規定の変更を行ってきています。そこに流れる大きな方針は、財団を中心に資金を吸い上げ、地区主導の元、いくつかのクラブがまとまって奉仕活動を行い、それを積極的に広報すると共に、職業が無い方の入会も認める等、間口を広げ、ロータリーの会員数の維持増加を図って

いくという中央集権主義のように見えます。この傾向は先ほど述べたように、通信速度の加速と共にRIへの権限集中が、より強くなるかもしれません。クラブの自治権は、規定の裁量権という所にかろうじて残りそうです。

そのような環境の中でも当クラブは、42歳から95歳の幅広い年齢の120名に迫る会員が、和気あいあいとクラブライフを楽しみ活動しています。地区全体が会員減少にどう対応するかを議論している中で、当クラブはそのメンバー数を維持しているだけでなく、増加させています。

現在ありがたいことに、若いメンバーの入会が増えてきました。最近5年間で入会された方が30名に及ぶと聞いています。その理由は何でしょうか。

それには各年度の方々、及び、会員増強委員会の努力があったことが第一です。数年前から、会員増強委員長が理事に就任し、会員増強委員会を若いメンバーで構成し会員増強に努めています。

先日、当クラブで会員アンケートを取りました。アンケートの答えの内、ロータリーに入会した理由、及び、ロータリーに留まる理由に共通して1番が友情と繋がり、2番が自己開発/研修、となっていました。会員の皆様からは、友情と繋がり、及び自己開発と自己研修が、クラブに期待されています。

我がクラブでは、例会、親睦会、家族会や同好会、奉仕活動等を通じて、期待されているような、魅力あるクラブライフがおくられているから会員数が維持出来ているのではないのでしょうか。

私はクラブとは人の集まりであり、所属する楽しみがなければ意味がない、良いメンバーが集まり、友好を深め仲間を作り、その仲間での奉仕活動をするから楽しいのだと確信しています。

その上で、クラブを一層活性化するには若いメンバーの増強が重要です。彼らはロータリークラブが自身の人生及び事業に如何に役立つかを期待して入会します。彼らの期待に応えられないクラブは衰退しているのが現状ですので、その期待に添えるようにしたいと考えています。

若い年代の会員によるクラブの活性化という観点では、昨年度の大きな奉仕事業のみならず、忘年家族会での会員有志のバンド演奏や、6月25日の

会員親睦会におけるクラブ活動の報告など、次世代の会員の企画力と活力を見せていただき本当に頼もしいと感じました。

一方で、クラブに重みを付けるのはクラブ歴の長い会員です。そのような会員ほどロータリアンであるというプライドを大事にします。

クラブの重みを付けるという観点では、最近うるさいおやじが絶滅危惧種になったように見受けられます。うるさいおやじ、煙たいおやじが、会に緊張感を与えます。

私が入会したころは、一部のチャーターメンバーの方々はまだ在籍され、クラブは、うるさいおやじ、煙たいおやじしかおられないような環境でした。しかし、なんともいえない緊張感と厳かな雰囲気があったことをよく記憶しています。

以前、他のクラブの方に、最近うるさいおやじ、煙たいおやじがおられ無くなりましたとお話した所、そんなことは心配しなくてもよい、誰でも年を取ればうるさいおやじ、煙たいおやじになると言われました。しかしそれに反し実際は、うるさかれる、煙たがれる位、自己主張するおやじは絶滅しそうに見えます。

クラブ歴の長い会員の方々は、ロータリアンのプライドの重みを理解されていると思いますので、是非遠慮をせず、うるさいおやじ、煙たいおやじになっていただきたいと思います。若い世代の方々もそれをうるさいと思わず、クラブへの愛情と受け止めていただけるようにお願いします。

最初の方で述べたように、ロータリークラブとは社交クラブであり、奉仕団体ではない、奉仕するロータリアンを育てる場である、その根幹を増すのが職業奉仕ということを言われてきました。そしてその育てる場、自己研鑽の場が例会であり、それ故、例会の出席が重んじられています。ロータリークラブの存立理念は、今も変わらずこのようなものではなく、必ずです。

我がクラブの会員は、地場のオーナー企業の経営者で、転勤される方は少なく、尚且つ在籍期間が長い会員が多い傾向にあります。つまり長く在籍しながら自分の意思決定で企業の方向性を決めることが出来るということです。このような会員構成である



からこそ、当クラブはロータリーの旧来からの価値観を大事にしていくことが出来ると思います。

木に例えるなら、先に述べたような理念が幹であり、そこから色々な活動の枝が出て、その成果としての葉が茂るということではないでしょうか。

最近読んだ本に、我々人類（ホモサピエンス）と類人猿との違いが分析されていました。チンパンジーは30頭前後の群れを作り統一した行動がとれますが、それ以上の大きさの群れを作り統一した行動することは出来ません。一方、人類は言葉を駆使し、コミュニケーションを通じて、はるかに大人数、いわば国単位で価値観を共有して共存し行動することができます。

我がクラブにもこれだけの会員人数がおられると、若い世代の会員は多くの行事に駆り出されることへの不満があるでしょうし、クラブ歴の長い会員には、ロータリアンとしてのプライドの重みが無くなってきていることへの不満等があるのではないかと感じています。これらを総合して100点満点の答えを出すことは難しいことと思いますが、70点の及第点を目指し、世代を超えた会員間の融和を図りながら、チンパンジーよりましな程度には、幅広い世代が楽しめるクラブを作っていきたいと考えています。

RI（ロータリー国際）では色々な規定を柔軟にしながらも、各クラブの裁量権を認めています。神戸東クラブでは、活動全般について、奉仕活動による外部への働きかけと、旧来のロータリーの価値観である職業奉仕を主にした自己研鑽のバランスを取り戻したいと考えています。

2019-2020年度の会長方針を以下の様にしました。

詳細については、活動方針に書いていますのでお読みください。

1. クラブ理念を確立する事。

会員を職業人の集まりとし、例会や奉仕活動を通じてお互いに職業倫理を学び合い切磋琢磨し、それぞれに持ち帰り、自分の事業を通じて地域社会へ貢献することとする等。

2. 例会運営について、クラブ理念の元、厳かさ緊張感のある雰囲気の中で世代を超えた会員相

互の融和をはかること。

3. 会員増強について、若い世代の会員を引き続き増やすと共に、クラブの精神的な柱となる影響力の大きい人材の入会を図ること。
4. 事務局について、今後の事務局のあり方を模索し、限られたリソースを効率良く公平に使うこと検討する事。
5. クラブ財政について、クラブ運営を支える健全な財務体質の強化を図る事。

最後に、人間の三大欲求は、

- 認められたい、
- 役立ちたい、
- 褒められたい、

とされています。我がクラブの会員であることが、会員各位にとってこれらの三大欲求を満たせるようになっていく様に努力したいと思います。

1年間気楽に楽しくやりたいと思いますので宜しくお願いします。



会員の皆様のお力添えをお願い申し上げます。



副会長  
理事  
クラブ管理運営委員長  
井元 憲生

この度、副会長の大役を務めることとなりました井元憲生です。今年度は副会長とクラブ管理運営委員長という2つのミッションを与えていただき、身の引き締まる思いです。

第1のミッションである副会長と致しましては、「クラブライフを通じて世代を超えた繋がりを」という会長方針に則り、会長の掲げるクラブビジョン（テーマ）を基本とした下記5つのビジョンを推進してまいります。

#### 【クラブビジョン（5テーマ）】

1. クラブ理念の確立
2. 厳（おごそ）かさ緊張感のある世代を超えた会員相互の融和
3. 会員（若い世代）増強及び影響力のある人材の入会
4. 今の時代にあった事務局の運営
5. クラブ運営の為の健全な財務体質の強化

また、会員の皆様のロータリークラブライフに対する意欲とモチベーション向上に向け具体的にサポートできるよう、誠心誠意努めてまいります。

次に、第2のミッションであるクラブ管理運営委員長として、各委員会の委員長と各方針をご紹介します。

#### ＜出席委員会＞ 吉田建美委員長

「例会出席」をロータリー活動の基本とし、各種事業への参加・出席の認識を高めるよう努める。

#### ＜親睦・家族委員会＞ 梅田稔委員長

活力あるクラブ運営の維持に繋がる様な楽しく有意義な親睦会、家族会等を企画し設営する。

#### ＜プログラム委員会＞ 岡栄治委員長

ロータリーの例会を有意義且つ内容のあるものにするべく、卓話の内容、卓話者を選定する。

#### ＜週報委員会＞ 山本裕計委員長

活動の正確な記録と情報伝達、週報の内製化、週報配布の合理化。

#### ＜唱歌委員会＞ 森本一裕委員長

全員で唱歌することにより、例会の規律と親睦友好の向上に努める。

各委員会とも、会長の掲げるクラブビジョンのもと非常に重要な方針を掲げていただいております。また、唱歌委員会については今年度より新たに新設された委員会でございます。各委員会に対し、私としてもしっかりと支援していけるよう、1年間一緒に協力して励んでまいります。

話は少し変わりますが、100年以上続くロータリーの歴史の中で、ロータリー・マークのデザインは様々な変遷をたどってきたと聞いています。今のマーク原型になったのが1920年に採用公布された、スポークが6本、歯車が24個のデザインです。しかし、これも中心に“楔穴（くさびあな）”が無かったことから、これが無いと空回りしてしまうという意見があり、1924年に“楔穴”を追加した今のマークになったそうです。この話を聞いた時、会長をはじめとする三役はロータリークラブという歯車がスムーズに回るための、まさしく“楔”であると感じました。クラブの運営を円滑に進めることに徹し、この1年頑張っております。皆様のご協力を何卒よろしくお願い致します。





幹事 理事 吉田 茂

皆様こんにちは、伝統ある神戸東ロータリークラブの本年度幹事を仰せつかりました吉田茂でございます。どうぞ一年間よろしくお願い致します。

いつの間にか年号も「昭和」「平成」「令和」と移り変わり、私も60歳を過ぎてしまいました。ロータリークラブも在籍20年を過ぎてしまったのですが、あまりロータリークラブの勉強をしておりません。このような状況で幹事を引き受けてもよかったのかわかりませんが、引き受けたからにはできうる限り頑張ってお届けと一緒でロータリーライフを楽しめる様に進めていく所存です。

今年の須藤会長のテーマにあります「クラブライフを通じて世代を超えた繋がり」にのっとりメンバー間の世代を感じさせないみんなで楽しいロータリー活動ができます様に精進してまいります。

また、須藤会長の神戸東ロータリークラブの将来を見据えてクラブ理念の確立、内部の充実をはかり次代のロータリアンにも安心してクラブ運営ができるように指針を確立したいとの思いを手助けできるように頑張っております。

この1年間、須藤会長、井元副会長を支え得る事は僅かですが頑張っていく所存です。

焦る気持ちでいっぱいですが皆様と共に明るく、楽しく居心地のいいクラブ造りを目指します。とちったりするかもしれませんが、皆様のご協力と温かいご支援を心からお願い申し上げます。



奉仕プロジェクト委員長  
職業奉仕委員長 理事 工藤 恭孝

奉仕プロジェクト、職業奉仕の委員長を仰せつかった工藤です。

ところで、この私は20年にわたる東京勤務のため、ロータリー活動のブランクは長く浦島太郎状態です。「奉仕プロジェクト」とは、「5大奉仕部門の第2部門」のひとつなんですか？そもそも「職業奉仕」とは、自己の職業上の高い倫理基準を保って社会に奉仕できる仕事をすべきという商道徳と教わってきたと思っていましたが、もともと訳が解らない用語だったうえに現在のRIとの考え方の齟齬はどういうふうに理解すればいいのでしょうか？こんな状況で委員長が勤まるとは思えません。

お世話を受けるばかりの心苦しい立場を解消しようと思っていましたが、逆になりそうです。ロータリーの目的のひとつである「職業奉仕」とは、どうあるべきかを立場をわきまえず皆さんに教えていただく1年にしたいと思います。申し訳ございませんがどうぞよろしくお願いいたします。



社会奉仕委員長  
理事 西原興一郎

本年度、社会奉仕委員長を仰せつかりました、西原興一郎でございます。この、一年間、皆様方には様々な行事に、参加のお願いをすることになります。どうか宜しくお願い致します。

今迄、色々なお役を仰せつかり、何とか特段の荒波を立てることなく済ませてまいりました。自から勉強することはなく、人様のお膳立てに乗っかってのことでした。今回は、その為に、反省と勉強の機会を与えて頂いたと考えております。

RCは「奉仕の理想」の旗がなければ、単なる交流会、昼飯会にすぎないと考えます。

最近、声を大きく言われた企業の考え方に、企業は、収益を求めるのみでなく、環境、寄附、様々なボランティア、文化支援、人材問題、女性問題等を通して、企業としての、社会的貢献活動を求められている、との認識があります。

CSR (Corporate Social Responsibility) と称し、一部企業には、CSR 担当役員が任命されております。

通常の企業では、直接利益を生まない活動は、思っても、それを計画し実行するには、大きなパワーと何よりも社会への並々ならぬ強い意志が必

要です。

神戸東 RC の社会奉仕活動は、奉仕活動そのものが RC の立脚の原点であることから、会員各位の思いを、簡単で小さな行動で社会奉仕に参加できるものから実行して行きます。

また、奉仕活動は長期的な活動を必要とし、続けることに意義があることから、継続事業を中心に考えます。

具体的に

- (1) 神戸市立友生支援学校生と神戸市立青陽東養護学校生への招待ボーリングの実施
- (2) 神戸東プロバスクラブの支援
- (3) NPO 法人クルズの支援
- (4) 神戸東 RC が支援し、活動を続けておられる就労支援福祉作業所ボレロの支援

以上四項目を中心に活動して参ります。

社会奉仕活動は、支援を受けた人々よりも、支援をした人の心への利益が大きいと考えております。

どうか、この一年間、宜しくお願い致します。





国際奉仕委員長  
理事 村元 信吾

まずは私の自己紹介から、今年度国際奉仕委員会委員長を務めます。村元信吾と申します。

1947年6月27日生まれの72歳。神戸市舞子出生で大学まで神戸で過ごし、外資系コンピューター会社に20年間在籍し、コンピューター以前の会計機の販売から、PCの黎明期、大型機の終焉一歩手前まで業務系で働きました。その後実家の海外展開でシンガポールに商社機能の事務所を設立にあたり転職し、10年間駐在しその後十数年毎月出入りしながら、東南アジア、アメリカ、チェコなどの現地法人を作って来ましたが、今はベトナム ハノイにある会社の一部を取得し、マレーシアンチャイニーズのボスの元、現在も毎月ベトナムかマレーシアへ出掛ける、落ち着かない生活をしています。

このような経験から国際奉仕委員長を指名されたのではと思います。

今年度は2014年に続いて2度目の指名です。

そして今年度の国際奉仕委員会の活動ですが、  
**基本方針として**

本年度会長ビジョンの「Vision is dream with purpose」  
“クラブライフを通じて世代を超えた繋がり並びに「認められる、役立つ、褒める」を基本に国際理解、

国際推進、国際平和を目指し活動を行う。

**具体的活動内容として**

- 1) シスタークラブとの交流を行い、維持、発展に務める。 2020年6月27、28日
- 2) カンボジア医療技術 VTT 報告会への参加 2019年8月
- 3) 2020年国際ロータリー大会（ハワイ）への参加企画 2020年6月10～12日
- 4) 新たなグローバル補助金事業の開拓

**2019 - 20年度 国際奉仕委員会 構成**

委員長 村元 信吾

副委員長 後藤 章暢

委員 山野 蕪、乙守 典厚、宮 昭久

松谷 齋泰、香山 道宣、弘田 芳裕

**お願い**

シスタークラブの会長交代式並びに国際ロータリーハワイ大会は、詳細が決まり次第参加希望を募りたいと思っています。

皆様の当委員会へ奮っての活動参加をお願い申し上げます。





青少年奉仕委員長  
理事 榎野 孝人

基本方針は、会長方針にある「組織は毎年同じことを続けていけば衰退します。続けることと変わっていくことのメリハリをつけていくことが重要です」の言葉通り、次世代のリーダーとなる青少年の健全な心身の育成に貢献することを目的として、委員会メンバー全員がロータリークラブの精神を発揮して委員会活動を行うという根本は変えずに、具体策について知恵と工夫で常に進化するように事業を行っていきたいと思っています。

**具体的な活動内容は以下の3つです。**

ひとつめは、「インターアクト・ローターアクトクラブ結成への道筋をつけること」。過去に止めてから長い間、そのままになっていますが、未来のロータリークラブの発展を考えると、活動再開したいところであり、会長の温度感も高いと感じています。なんとか再開の道筋をつけることができるよう取り組んでいきたいと思っています。ただ、以前と比べると社会環境の変化が進んでおり、またインターアクトクラブにおいては学校や教員を取り巻く環境も大きく変わっています。具体的には、教員の多忙化が叫ばれる中、顧問となる教員の負担感や部活動で

さえ制限がかかる中、定例会の回数の多さなど、現状のロータリークラブのルールでは再開することも長く継続することも高い障壁があるようなので、ルール変更の申請も含めて柔軟に検討していきたいと考えています。

ふたつめは、子どもたちやその保護者からも評価が高く、人気がある継続事業「永田萌先生との写生会」です。内容自身はとても素晴らしいものですが、現在は主催が王子動物園であり、神戸東ロータリークラブの存在意義や役割が薄くなってきているという課題が出てきています。クラブとしての関わり方、あり方、意味合いをしっかりと固めて、さらに良い事業になるように改善実施していきたいと思っています。

みつめは、RYLA セミナーへの参加者を募り、できれば前年同様に神戸東ロータリークラブから参加してもらうことです。ロータリー全体や奉仕の精神についての理解や共感もさることながら、神戸東ロータリークラブへの理解や共感も合わせて醸成してもらうための絶好の機会だと思いますので、しっかり取り組んでいきたいと思います。

以上3点、初の青少年奉仕委員長でわからないこと、慣れないことも多いのですが、頼りになる委員が6名おりますので、よく相談しながら私たち自身も楽しんで頑張っていきたいと思っています。





## 「みなとこうべ海上花火大会鑑賞会」を開催 ～夜空を彩る 6500 発の花火を満喫しました～



2年に一度のイベント、みなとこうべ海上花火大会鑑賞会を令和元年8月3日に神戸メリケンパークオリエンタルホテルにおいて開催致しました。会員と会員のご家族、そして米山記念奨学生の邵(ショウ)君の総勢115名参加のもと須藤会長の挨拶、角田会員の乾杯で第1部の懇親食事が開宴しました。食事会場から見える神戸港を眺めながら美味しい料理とワインを堪能し、子供達にも須藤会長からプレゼントが配られるなど参加者全員が楽しい

時間を過ごしました。会食後の花火鑑賞会では尺玉の打上げに子供達から歓声があがり、夜空を彩る約6500発の花火を満喫しました。当日はお天気も良く、日没後は暑さも和らぎ花火大会にはうってつけの気候となり、食事会から花火鑑賞会、交通規制解除までのBarタイムまで終始和やかなムードの中親睦を深める1日となりました。最後にスムーズな進行にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

(親睦家族委員長 梅田 稔)





# カンボジア VTT 事業：最終章 2019.8.7～8.10 カンボジア・プノンペンにて



ロータリー財団グローバル補助金を活用した VTT 事業も最終章をほぼ終えた。カンボジアでは、子宮頸癌発症頻度が著しく高く、子宮頸癌防止事業がカンボジア産婦人科学会と日本産婦人科学会の協力のもと開始した。この子宮頸癌事業について神戸国際医療交流財団から啓発を受け、神戸東ロータリークラブの国際奉仕事業として取り組むことを決めたのは 2017 年早秋であった。癌の診断には病変部の病理組織診断が必須であり、この病理組織診断には病理検査技師が作製する病理組織標本の質が決定的に重要である。今回、VTT 事業として、カンボジアから 5 人の若い精鋭の病理検査技師を神戸に招来し、神戸常磐大学で実習を中心とした研修を 2019 年 3 月に 2 週間にわたって行った。この神戸での研修の成果が、帰国後、本国で生かされ結実しているか、調査検証する目的で、2019 年 8 月初旬カンボジアで現地追跡調査を行なった。松谷国際奉仕委員長、後藤同副委員長、神戸国際医療交流財団松本医師、がん研有明病院臨床病理科小松技師長、新渡戸文化短期大学臨床検査学科廣井教授が現地各病院を訪れ、来神した 5 名の病理技師の作業状況を調査した。この調査団にロータリー財団委員長藤井（光）会員も同行した。また、国際奉仕委員会松下会員と奥様もプノンペンで合流された。また、別動隊として 2018-19 年度澤田会長以下、橋本会員、田中（義）会員、香山会員、小谷会員の 5 名がベトナム経由で、8 月 9 日朝、プノンペンに入った。8 月 9 日（金）夜、プノンペンのレストランにて、本 VTT 事業の援助国側提唱クラブであるプノンペンメトロ RC の Marcus 会長以下 8 名と日本から訪れた 13 名で夕食会を持ち、両ロータリークラブの親睦を深めた。8 月 10 日（土）午前中、神戸東 RC、プノンペンメトロ RC、カンボジア産婦人科学会（SCGO）共催による、Pathology Seminar of Rotary Club and SCGO on ” Improve and expand the

pathology service in Cambodia” と題したセミナー（本研修事業修了式）が開催され、5 人の病理技師が習得した立派な技量を報告した。この時、今回の事業のために仕上げられた病理組織検査作業の手順書（英語版：“The 5 Ms” Practical Guide to Histologic, Cytologic, and Pathologic Preparation）が配布された。この成書は、今後カンボジアに留まらず、広く国際的に活用されるに足る立派なものに仕上げられた。カンボジア産婦人科学会会長からも感謝の言葉をいただいた。セミナー終了後、ランチパーティーが開かれ懇親を深めた。その後、国立母子保健センターを訪問し、日本から贈られた各検査器具が置かれた新しい検査室を視察し、また、同病院の病院長や病理検査技師の Ti Ti と懇談しカンボジアでの予定を終了した。感慨深い VTT 事業最終章であった。この事業に関わっていただいた神戸国際医療交流財団をはじめ多くの方々には感謝申し上げますとともに、松谷委員長には余人をもって代えがたい重要な役割を果たしていただいたことに心からお礼申し上げます次第であります。

（2018-19 年度会長 澤田 正樹）



今回の VTT 事業で日本から寄贈された検査器具機械が並ぶ国立母子保健センター新検査室にて



会員増強委員長  
理事 角田 嘉宏

## 日本のロータリーの拡大と 神戸東 RC の会員増強

我が国におけるロータリアン数が急速に増加していった年代以前は、1業1人原則制、住所地または勤務地のロータリークラブ以外のロータリークラブに入れられないというテリトリー制、週1回の例会開催制が守られ、例会出席率の高さを誇る気風が満ちていた。

しかるに、現在では1業1人原則は緩められ、テリトリー制は廃止され、週1回の例会開催制は月2回の開催でも良くなり、上記の制度や原則などで守られてきた伝統的な職業奉仕の理念が極めて稀薄になっている。

世界中のロータリークラブが順守すべきロータリークラブ定款第10条第1節（会員の身分）条項によれば、ロータリークラブは職業人（のみで）で構成されていても良いが、その他に地域社会で評判が良く奉仕（必ずしもロータリーの伝統的職業奉仕でなく、職業に基づかない金銭奉仕＝寄付でもよい

の意思を持った成人（職業人でなくても良い）の入会を認めても良く、そしてその様な成人のみのロータリークラブをも許容されうる旨を規定している。

一方、日本のロータリーの現状は如何かと云えば、日本のロータリーの総意を反映すると目されるRI公認の地域誌「ロータリーの友」毎号の第6頁「ロータリーとは」欄には「ロータリークラブとは伝統的には高い職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりであり、それらのロータリークラブは様々な需要に応じていろいろな活動をしようとしている」と記し、日本の大多数のロータリークラブは伝統的職業奉仕の理念に基づく活動を行っているのである。

ここでいう伝統的職業奉仕理念とは、地域社会を構成する職業の、高い倫理基準を有する代表的職業人たるロータリアンが自己の職業を通して（＝職業行為を行うことによって）地域社会に奉仕するという考え方を示している。

ロータリーにおいては、シェルドンの“*He profits most who serves best.*”（最もよく奉仕する人が最も良く報われる）とコリンズの“*Service above self.*”（超私の奉仕）の2標語で知られている。そして世界中のロータリアンの職業奉仕により生ずる、それぞれの地域社会における持続的な利益の総計は、本質的には、持続性が期待できない慈善寄付タイプの奉仕による利益の総計より遥かに大きいものと思われる。

我が神戸東ロータリークラブは、「神戸」（神戸市およびその周辺を含む）という地域社会に於いて、高い職業倫理基準と職業知識を有する代表的職業人で構成し、例会はその理事会決議による年4回の休会は認めているものの、基本的には週1回開催原則

を保ち、例会場への実出席を要するなどの規定を当クラブ細則には定めている。

従って例会をはじめクラブ事業、委員会及びその事業、さらには多様な同好会などの活動により会員間の接触・交流の機会は、他の奉仕クラブはもとより他のロータリークラブより多く、会員間の相互啓発による、職業倫理意識並に職業知識の高揚がより多く期待されている。

そもそもロータリーの奉仕の対象地域は、その奉仕の主体となるロータリアンの活動地（勤務地/住所など）の地域社会であって日本であれば都道府県市町村であって国家ではない。

ところが、本年7月4日のRI会長マロニー氏の全世界のロータリー及びローターアクト指導者あてに発信されたメールに、国連のプロジェクトに協力して国連とゴールを共有する。そしてその1st Action Plan ゴールにおいて、世界で初めてのロータリーの影響が出てきたむねが書かれている。

日本の大多数のロータリークラブおよびそのロータリアンは、地域社会の職業人の職業奉仕理念による地域社会（コミュニティ）に対する奉仕即ちロータリークラブ定款でいう“Community Service”（日本語で「社会奉仕」と訳されている）を行っているのであって、「世界社会」のために行っているのではない。ロータリーは伝統的職業奉仕理念に基づくロータリー精神の基本に戻るべきである。

我が神戸東ロータリークラブの会員増強については、伝統的な職業奉仕理念を維持していることを説明し、入会希望者に高い職業倫理基準と職業知識を有する、地域社会においてもその業種における代表的職業人であり職業奉仕の意思があることを確認して入会して頂きたいと思っている。





古賀 健一  
—大和研装社—

平成31年3月12日に、伝統と格式高い神戸東ロータリークラブに入会させていただきました古賀健一と申します。

私は、昭和28年6月24日熊本県熊本市にて生まれました。奇しくも、誕生日の前日くらいから九州北西部に梅雨前線が停滞し、熊本、大分、佐賀、福岡で計1,000名以上の死者行方不明者が出る西九州大水害の真ただ中で生まれ、産婆さんが船で来たという話を母親から何度も聞かされておりました。

父は銀行員でしたが、この頃日本は高度成長期に入り、銀行も拡大時期で父は新店舗の開発チームにおり、新店の立ち上げの仕事をやっておりました関係で、私は小学校を6回転校いたしました。

中学校の入学式の日には吹奏楽部を訪ね、その日から吹奏楽部に入部いたしました。その後、高校、大学と吹奏楽部に所属し、大学入試の時、親に俺は福岡大学吹奏楽部に進学するといって大笑いされた記憶があります。全国大会で金賞をとることだけを目指して学校に通っておりました。因みに本当の学部は人文学部フランス語学科で似ても似つかぬ学部在籍しておりました。大学3年生のある日クラブの先輩から、古賀ちょっと頼みがあると、、、楽器を持って中洲の\*\*キャバレーに行ってくれんか、なんも吹かんでいいねん構えて吹く振りしてればいいからと3000円渡されました。ラッキーと思いキャバレーに行ったところ、なんとその日いしだあゆみショー

で、吹く振りどころかチャンと吹かんととんでもないことになりそうで、必死で休憩時間に練習して何とか切り抜けました。それがきっかけでキャバレーのレギュラーとして仕事をするようになり、そこから約5年間バンドマンとして仕事をしておりました。そのうちキャバレーもだんだん斜陽となり数も減り生バンドも数が減り仕事がなくなり始め、仕方なくダイエーの深夜の掃除のバイトを始めました。どうして深夜かというと、バンドの仕事が11:45分に終わり、0:00から朝7:00までの掃除の仕事が時間的に都合がよかったからです。そのうち彼女との結婚話が出たときに先方の親が社会保険持ってるやつしか娘はやれんと言われ、ダイエーの清掃をしている会社の上司に社員になったら社会保険貰えますかって聞いたらいよいよ言われバンドから完全に足を洗いその会社の社員になりました。その後40年間たって現在社長として先代の会社を引き継ぎ、何とか会社をやり繰りしている次第です。

ダイビングを始めたきっかけは、30代に東京のダイエー本部に出向していた時、取引先の社長にダイビングのライセンスを取りに行きたいから付き合えと言われ、いや海に潜るとか怖いんで勘弁してくださいと断ったら、取引やめてもいいんやでって脅され仕方なくサイパンまで行ってライセンスを取ったのがきっかけです。因みに僕を誘った社長は3年くらいでダイビングはやめてしまい、私はもう30年近く続けております。

10年前、創業家の2代目から社長を拝命し、会長の元で雇われ社長として業務に邁進してまいりましたが、6年前大病により亡くなられた先代に替わり、創業家ではない私が遺族より託された、創業66年目を迎える会社の三代目オーナーとして日々業務に携わっております。

私共の事業は地味ではありますが、現代社会の中ではなくてはならない、社会に貢献している仕事であると確信しております。この職業に携わっている一人としてロータリークラブの理念である職業奉仕の精神に少しでも貢献できればとの思いで入会させていただきました。若輩者ではございますが、諸先輩方のご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



芳賀 博之  
—トヨデンサービス—

この度、2019年3月5日に伝統と格式のある神戸東ロータリークラブに入会させて頂きました芳賀博之と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

自己紹介をさせて頂きます。

私は1970年（昭和45年）12月22日生まれ、血液型はA型です。

家族は妻と二人の息子の4人家族です。生まれは大阪市阿倍野区です。そこで大学を卒業するまで過ごしました。現在は神戸市東灘区甲南町に住んでおります。

趣味はゴルフとスポーツ観戦です。

私は幼少の頃やんちゃ坊主で、落ち着きもなかったため母親から柔道、野球等スポーツ系の習い事をよくさせられていました。なかでも小学3年生からは兄の影響もありラグビースクールに通うことになりました。そのラグビーに大変ハマリ青春時代をラグビー漬けの生活で過ごすことになりました。また高校では人生最恐の恩師に出会うことになりました。気合と根性をまさに地で行くような先生で指導は大変厳しく、屈強な先輩、OBも先生の前では皆借りてきた猫のようになっていました。

また業界ではとても有名な方で当時高校日本代

表のコーチも務めておられ、顔も広く強豪校との試合もよく組まれるのですが、試合内容の悪いときには毎度地獄のような教育的指導が待っていました。そういった日常のなか下がることを是とせず「常に前へ」「気持ちで負けない」この教えを徹底的にすりこまれました。

ラグビーというスポーツとこの恩師に肉体も精神も鍛えてもらい人間形成をして頂いたように思います。

大学を卒業しまして名古屋の会社に10年間勤め、その後32歳の時に兄が代表を務めます豊田電気株式会社に入社することになりました。

ここでは主に住友ゴム工業株式会社様の設備関係の仕事をして頂き海外工場を担当しました。

多くの海外対応をさせて頂きましたが、なかでも思い出深いのがタイ法人の立上げでした。親日国とはいえ日本では考えられない政治的な問題、文化の違い、人の問題等クリアしなければならないことが多く苦労もありましたがローカルスタッフ他多くの力添えを頂き何とか開業することができました。

36歳の時にはトヨデンサービス株式会社を立ち上げ、制御機器販売、機械製作を始め関西地区を中心に事業を営んでおります。

人のご縁に恵まれ、多くの人から教えを受け、多くの仲間から助けてもらうことでここまでなんとかやってくることができました。

この度ご縁ありまして神戸東ロータリークラブに入会させて頂きたくこととなりました。

高校1年の春、ラグビー部に入部したときのつもりで精進してまいりたいと思います。ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



## 第一回会員親睦会を装いも新たになった 初秋の“THE Sorakuen”にて開催しました



須藤会長年度第1回目の会員親睦会を2019年9月10日に会員と事務局、そして米山記念奨学生の部（ショウ）さんの総勢70名参加のもと昨年12月に装いも新たに生まれ変わった「The Sorakuen」（旧相楽園会館）にて開催しました。18：30、薄明りの庭園をバックに須藤会長の挨拶、小倉会員の乾杯で賑々しく始まった宴は美味しい料理に美味しいお酒、そして楽しい会話と終始和やかな雰囲気が進みました。新会員の自己紹介に続いてデザートの説明をしていたパティシエが突然「第九」を歌い出す

サプライズでアトラクションがスタートし、約20分の間、バリトン歌手、テノール歌手、ソプラノ歌手、ダンサー6名から成るワールドミュージックプロジェクトの美しい歌と軽快なダンスに会場は魅了されました。デザートブッフェを楽しんだ後、鮑次年度会長の中締め挨拶で20：30に閉会しました。ご参加頂いた会員の皆様のご協力により世代を超えて親睦を深める1日となりました事を感謝申し上げます。

（親睦家族委員長 梅田 稔）





余韻会 (俳句同好会)

令和元年六月六日

於 西村屋 花みかげ

若葉風レッスンバッグ弾ませて

奥田 好子

小枝より緑さし初む楠大樹

執行 執艸

更衣して重くなる帽子かな

角田 伯堂

顎出して麦笛を見る園児かな

則岡 弘士

散髪の終へし頃や若葉風

壺井 仙岳

新人の顔見合はせて新茶飲む

松谷 泰山

ぎこちなく神楽舞ふ巫女風若葉

吉井 聖倅

あと何度酌み交はせるか父の日よ

関本 剛紀

新樹晴空いつぱいに深呼吸

松原 氣宏

茅葺の茶屋の連なる若葉径

村野 離翔

輝きし君の瞳や若葉萌ゆ

飯田 美音

余韻会 (俳句同好会)

令和元年七月四日

於 西村屋 花みかげ

夏帽子鳥影つなぐ波の音

奥田 好子

賑やかに夏帽子群れ幼稚園

執行 執艸

青嵐ティショットの球飛びにけり

角田 伯堂

八十路すぎ淡路を想ふ田植時

畑崎 青峯

青嵐大楠木の葉を散らす

塚本 宗哲

スカートを押さえつつ行く娘青嵐

壺井 仙岳

夏帽子席を取りたる二つ三つ

吉井 聖倅

明易し誕生秘話を語る母

松原 氣宏

山梔子の花の錆ゆく定めかな

村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

令和元年八月一日

於 西村屋 花みかげ

布引の滝に親しき風渡る

奥田 好子

夕暮れの滝の白さの残りをり

執行 執艸

草いきれ去年の元気と比べけり

角田 伯堂

夕風やピンクの水面ポンポン舟

則岡 弘士

草いきれ逃げ場を探す小さきもの

塚本 宗哲

夕風に網の繕ひ捗りぬ

壺井 仙岳

たそがれて夕風よどむ帰り道

松谷 泰山

下山客リュックも靴も草いきれ

吉井 聖倅

いつまでも瀧に見入りし女かな

村野 離翔





写真と文 角田 嘉宏

### 「ブハラ城の物見櫓」

1997年神戸東RCの「シルクロード」好き5人が神戸シルクロード探険隊を僭称して敦煌、トルファン、ウルムチと四駆でタクラマカン砂漠を走破して来た。以後第2回はトルコ、第3回はエジプト、第4回はウズベキスタンと続き本年9月挙行のギリシャ、イタリー・ローマの第5回で完了する予定である。この写真は第4回ウズベキスタンの古都ブラハ城の物見櫓である。

## CONTENTS

3 役就任挨拶	1
4 大奉仕委員長就任挨拶	5
みなとこうべ海上花火大会鑑賞会	9
カンボジア VTT プロジェクトフォローアップ調査報告	11
会員増強月間に因んで「会員増強物語」	13
新会員自己紹介	15
第一回会員親睦会	17
余韻会	19

## 編集後記

3年前に我がクラブの雑誌会報委員会が広報委員会に変わりスタートをしました。広報委員会の役割は対内広報及び対外広報の役割を持っています。

本会報は対内広報ツールとして会員に対してクラブ活動を記録し、会員間の潤滑油となるよう作成しています。

我がクラブの対外に対しての広報はホームページがその役割を持っています。

今年度週報と会報にQRコードを掲載し、スマホにより一瞬で我がクラブの情報を知ることができます。会員の皆様だけでなく、知り合いの皆様ぜひ我がクラブのホームページをご覧くださいようお薦めください。

広報委員長 石橋恒生